

【7】最後に、戦争を普遍的な人間の愚かな行為として肝に銘じるため《中国帰還者連絡会》の出版物より、元陸軍中将・五九師団長だった藤田茂氏著“中国人民の寛大政策について”と、孫明齋氏著“撫順戦犯管理所長を勤めて”を是非歴史教科書の副読本として収録して頂きたいとお願いいたします。

この一文はどうやって日本の一軍人が己の戦犯としての罪を認めるようになったか、また肉親を惨殺された中国の管理人員が己の憎しみを抑えて、周恩来等党の命令通り囚人の命を守り、彼らが自分の罪に気づき認罪するのを待ち許すようになったかの心の記録です。これらを読めば、いじめなど心の傷を癒すすべが隠されているのではないのでしょうか。私たちは原爆は落とされましたが、アメリカのララ物資やこのような中国の寛大政策によって生かされて

もしていたのです。感謝する心を持ちたいものです。【8】世界史も羅列が多いが、その中で中東戦争の原因となった話またはアメリカ・カナダ・オーストラリア建国の歴史、キリスト教の教えなど現代の政治・経済に結び付く内容を囲みにして挿入してほしい。高校生が新聞を読んで理解するためである。

【9】世界史で第一次世界大戦を教える場合、音楽の時間に第一次世界大戦で命を落とした6人の友人たちにラヴェルが捧げた組曲「クープランの墓」等をレコード鑑賞させる。それにより当時の人々の気持ちを深く理解することが出来、また真の教養を身につけさせる事が出来るはずである。

【10】人類の歴史もアフリカから分かれて世界に広がったとすれば正に「人類みな兄弟」である。世界史も世界平和に貢献できるものであれば素晴らしい。

新米区議、驚き、戸惑いの2年半

港区議会議員 結城光江

議員になる前、私は長い間企業の中で働いておりました。ですから私の考え方は、良きにしろ、悪きにしろ、今までの経験が大いに影響を及ぼしているとおもいます。

私が政治に興味を持ち始めたのは、ちょうど5年くらい前、大前さんが平成維新の会を立ち上げようとなさっていた半年位前からでした。それまで私は仕事が楽しかったし、取締役という立場上、「会社をいかに安定させるか」ということばかりに心が向いていました。それが当時私の社長が主催しておりました勉強会の席で、ある政治家の話聞き、直接話してみて、「政治家の中にも、こんなに率直でひたむきな人がいるのか!」とびっくりしたのが始まりです。そして彼を通じて、政治から逃げているだけでは、決して良い国は作れないのだということ! 私達一人一人の意識が非常に重要だということ! 等を知りました。

そのようなおり、又新たな勉強会の席で大前さんの講演を聞き、彼の考え方、特に“道州制”に共鳴をし、平成維新の会に発足と同時に入会しました。評論家が多いこの世の中で、実践者のサポーターとして活動したかったからです。

「偶然は必然なり」という言葉があります。偶然の出会いというのは無いのだそうです。「人は逢うべき状況の中で、逢うべき時に、逢うべき人と会っている」のだそうです。このような一つ一つの出会いが、私の人生を大きく変えたのだと思っています。

そして2年半前、平成維新の会の推薦を頂いて無謀にも、地盤も看板も、もちろんカバンもなく立候補いたしました。お陰様で当選することができ、初めての一般質問には、維新の会港区の小田さんの協力を得て3つの理念を掲げました。

(1) 「結果の平等」から「機会の平等」へ(選択の幅を広げ、その中で本人が自分の状況に合ったものを選択できること)

(2) 政党政治から政策政治へ

(3) 提供者寄りから、受益者、生活者重視へ

2年半がたちましたが、「政治の世界は、行政より遅れているのではないか!」というのが私の実感です。まず第一は、定例会の日時が一ヵ月前でなく

ては決まらないということです。区によっては一年間のスケジュールが決まっている所もあるのですが港区は二ヵ月位前に区長に聞いても、はっきりしないのです。ですから私としても自分のスケジュールを立てる事が出来ません。時間を有効に使うことが出来ないのです。誰もこれがおかしいと思ってないようなのです。幹事長や議長に言っても取り上げてくれません。このような習慣が政治家の意識の中に《時間にもコストがある》ということが理解出来ない原因を、作っているのではないかと思いました。どんなに区の職員を言葉で責めてみても、自分たちがこのようでは、説得力が無いと感じました。

ですから、定例会が始まるとちょっとした問題でたとえば一つの言葉を入れるか入れないかで紛糾し2時間も3時間も遅れるのです。とにかく私が議員になって以来、スケジュール通りにいった定例会は一回もありません。

第2に驚いたことは、共産党の区議達の言葉づかいが、あまりに無礼で乱暴なことです。委員会などで職員に対する言葉を聞いた時、「このようなことが、まかり通って良いのか」と感じたほどです。ばかにする、罵倒する・・・区職員達が区議に対して反論出来ない(?)ことをいいことに、言いたい放題なのです。そして職員達はそれを恐ろしがり、ひたすら低姿勢! しかし共産党の区議達は区民の前では全く違う顔になるのです。これには、又私はびっくりしてしまいました。あまりの違いに! 二重人格としか考えられません。政治の世界は「ちみもうりょう」の世界と聞きました。このほかにも、まだいくつかあるのですが、紙面の関係上このくらいにしておきます。

今までと全く違った世界で、時として弱気になったり、落ち込んだりすることもあります。そのような時は大前塾長の講義を聞き、エネルギーをもらうことにしています。

今、一新塾で「日本再生へのシナリオ」というテーマの受講生になっています。やはり自分の原点を見直したかったからです。これからまだまだ色々な事があるかと思いますが、使命感と責任感を常に心に留めて、生きていきたいと願っています。